

道徳科の教材における障害

—障害と内容項目の関連に着目して—

○青木 利樹 田中 亮 奥住 秀之
(東京学芸大学教職大学院) (塩尻市立塩尻東小学校) (東京学芸大学)
KEY WORDS: 特別の教科道徳 教科用図書 障害

I. 問題と目的

特別の教科道徳(道徳科)が教科化され、教科用図書(教科書)が導入された。また、小学校学習指導要領において、道徳科の単元の主なねらいとする内容項目は、「A主として自分自身に関すること」、「B主として人とかかわりに関すること」、「C主として集団や社会とかかわりに関すること」の4つの視点から整理されている。

道徳科の教科書には障害に関する内容がいくつか扱われているが、内容項目と扱われている障害の種類の関連については十分検討されていない。

本稿では、小学校、中学校の教科書を網羅的に調査し、内容項目と障害種の関連を検討した。

II. 方法

文部科学省の教科書目録(2019)によると、小学校、中学校の道徳科教科書はそれぞれ8社から発行されている。小学校は、各社の第1学年から第6学年の教科書を対象とし、中学校は、各社の第1学年から第3学年の教科書を対象とした。小学校、中学校ごとに扱われている障害種と、障害が扱われている単元の主なねらいとする内容項目の関連を整理した。障害種は、「視覚障害」、「聴覚障害」、「知的障害」、「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」、「障害全般、その他」の6つに分類した。内容によって複数項目に該当する教材の場合は、いずれにも該当することとした。

III. 結果

1. 小学校道徳科の教科書で扱われる障害と内容項目

小学校道徳科の教科書において障害が扱われている 97教材のうち、「生命の尊重」の内容項目において最も多く23教材で、22教材が「病弱・身体虚弱」で、1教材が「肢体不自由」であった。2番目に多かった内容項目は「親切、思いやり」で、22教材であった。「親切、思いやり」では、「視覚障害」が8教材、「聴覚障害」が2教材、「肢体不自由」が7教材、「病弱・身体虚弱」が3教材、「障害全般・その他」が3教材であった。3番目に多かった内容項目は「希望と勇気、努力と強い意志」で、16教材であった。「希望と勇気、努力と強い意志」では、「視覚障害」が5教材、「聴覚障害」が3教材、「肢体不自由」が6教材、「障害全般・その他」が3教材であった。

2. 中学校道徳科の教科書で扱われる障害と内容項目

中学校道徳科の教科書において障害が扱われている 71教材のうち、「生命の尊重」の内容項目において最も多く16教材で、「視覚障害」が1教材、「肢体不自由」が2教材、「病弱・身体虚弱」が12教材、「障害全般・その他」が1教材であった。2番目に多かった内容項目は「希望と勇気、克己と強い意志」で、11教材であった。「希望と勇気、克己と強い意思」では、「視覚障害」が1教材、「聴覚障害」が1教材、「肢体不自由」が7教材、「病弱・身体虚弱」が1教材であった。3番目に多かった内容項目は「思いやり、感謝」で、7教材であった。「思いやり、感謝」では、「視覚障害」が3教材、「聴覚障害」が2教材、「肢体不自由」が1教材であった。

IV. 考察

1. 「生命の尊さ」

本調査では、小学校、中学校共に「生命の尊さ」の中で障害を扱うことが最も多く、そのほとんどが「病弱・身体虚弱」であった。青木・田中・大井・奥住・小林(2021)は、学級に病気の児童が在籍する際の本人や保護者への心理的支援の必要性を指摘したうえで、病気の児童がいる学級で「病弱・身体虚弱」の教材を扱うことが、本人の心理的基盤の涵養や他の児童の病気や障害の理解につながる可能性を報告している。

2. 「親切・思いやり」、「思いやり・感謝」

「親切・思いやり」、「思いやり・感謝」の項目で障害が扱われることが多く、「視覚障害」、「肢体不自由」が多かった。教材の挿絵では、白杖をもっている姿や車いすに乗っている姿が多く見られ、いわゆる「外から見て気づく障害」を軸に、障害者の日常生活での困難や障害者との関わり方に関する教材が多く確認された。北川・早川・福永・加藤(2014)は、道徳の時間に障害者との関わり方について考えることが、障害理解教育において重要な役割を担っていることを指摘している。

3. 「希望と勇気、努力と強い意志」、「希望と勇気、克己と強い意志」

「希望と勇気、努力と強い意志」、「希望と勇気、克己と強い意志」の内容項目において障害が扱われることが多く、中でも「視覚障害」や「肢体不自由」に関する教材が多かった。教材を見ていくと、アニー・サリヴァンや、パラリンピアンを取り上げた教材など、障害がありながらも活躍する当事者の話を取り上げたものが顕著であった。当事者について取り上げる際には、青木(2021)が指摘するように、特別支援教育と関連する外部機関との連携を図ることも重要であろう。

文献

- 青木利樹 (2021) 小学校の道徳科における連携・協働の重要性と特別支援教育. 教育支援協働学研究, 3, 126-127.
青木利樹・田中亮・大井雄平・奥住秀之・小林巖 (2021) 小学校「特別の教科 道徳」における病気の児童への指導の成果と課題—心理的な支援を視野に入れて—. 東京学芸大学教育実践研究, 17, 17-23.
北川沙織・早川裕隆・福永純恵・加藤哲則 (2014) 通常学級における聴覚障害理解授業の実践—道徳の時間との関連を中心に—. 上越教育大学教職大学院研究紀要, 1, 115-123.
文部科学省 (2019) 教科書目録.

(AOKI Toshiki, TANAKA Ryo, OKUZUMI Hideyuki)